

株式会社 イオク
代表取締役社長 井奥英明様

平成19年9月14日
鯨ヶ崎の住環境を守る会
会長 上村 千寿子

質問書

拝啓 貴社ますますご繁栄のこととお喜び申し上げます。
私たち近隣住民は、御社の「責任ある地元の企業」とは思えない行動に困惑しております。もし、責任ある企業であるのなら住民の不安や疑問にぜひ誠意をもってご回答いただくようお願い申し上げます。

1 無断で住民の敷地内の写真撮影、計測を行った件について
9月3日午後3時40分ごろ、御社新松戸支店の渡辺氏と武仲氏が住民所有の私道に立ち入り、無断で私道内の計測と写真撮影を行っていました。その場で当会会員が無断での撮影と計測をやめ、必要なら文書で申し入れをすること、無断で入ったことを同じく文書で謝罪することをお願いしましたが、未だ文書は届いていません。御社としては、無断で他人の敷地内に立ち入り、撮影、計測することに何ら問題がないとお考えなのかどうか見解をお聞かせください。

2、台風によるシート飛散事故について
9月7日朝、マンション予定地を囲むシートはひどい状態でした。約半数のシートが強風ではずれ、一部は道路を塞ぐほどで、普通に歩行することが困難でした。さらに何枚かのシートは吹き飛ばされてあちこちに引っかかるなど、非常に危険な状態でした。けが人が出てもおかしくない状況でした。また、重いシートは、高価な墓石を倒したり破損することもあります。お寺でも檀家の大切な財産を預かる立場として、大変困惑されています。会員の敷地内にはシートを止めていたヒモが吹き飛ばされ、何本も散らばっていましたが、いまだにそのままです。飛ばされたシートのバタバタとする音で、朝まで眠れなかったという住民もいました。

大きな事故にならなかったのは、不幸中の幸いというべきでしょう。
しかし、御社の土地の管理能力には大変不安を感じざるをえません。また、千仏堂をはじめ周辺住民に迷惑をかけているのに何の謝罪もありません。シートは設置されてから、かなりの年月が経っているため、シートもヒモも劣化し、強度が弱くなっているのはわかっていた事。事前に台風の報道はされていたのですから、御社は台風に備え、点検することもできたはずですが、全く対策が取られていなかったのは、誠に残念です。今後、このような事のないよう、謝罪と、具体的改善策を文書でご提出ください。※中央住宅の管理下では台風の前

後には必ず現場担当者が現場をチェックし、対応していましたので5年間シートの飛散事故は一度もありませんでした。

3、8月31日の御社回答について

ご提出いただいた御社の提案には大変失望しました。建物は6階のままで、建物の平均地盤面を下げたから5階とかわらないというのは、私たちにとってはさらに詭弁以下に感じられる内容です。また、桑原氏からは「住民がそれ以上をとこのなら7階でいく。」と住民にとってはまるで恫喝とを感じるような言葉まで発せられるなど、対等の話し合いの場とは思えない姿勢です。

8月22日のお話し合いのときに桑原氏は「7階案についてはないものと考えていただいてけっこうですから」と発言されましたが結局これも翻されました。いったいどのような意味があって、あのような案を提出されたのか御社のお考えをお聞かせください。

4、御社の姿勢について

そもそも、「5階」というのは7月5日に御社の本社で話し合いをした際に、井奥英明社長の立ち会いのもとで桑原氏が「近くの寮と同じ高さならいいのですか。あれは5階建てですね」と発言し、住民も5階を決着の一つの目安の高さと考えていましたから近い線で話ができそうだと期待し、「やっぱり地元の企業はちがう」という思い持ちました。しかし今回の件でその思いは粉々になりました。社長の姿勢として、今後、周辺の住民の強い願いを無視し、十分な説明もなく工事を強行されるつもりなのかどうか。お考えをお聞かせください。

5、土地を転売することについて

これまで「転売する予定なのか」という住民の質問に対して「自社の事業としてマンションを建てる」とご説明いただきました。しかし、9月8日にも「今朝物件があるので見てほしいと連絡があったから来た」という事業者が複数ありました。この事実が御社の説明とは矛盾しているのではないのでしょうか。

もし事業主として建築物を建てるのが事実ではないとすれば、御社が事業主として当事者能力を維持することを前提とした話し合いは、根幹から崩れてしまいます。

事実がどうなのかお答えください。

以上文書にて、9月21までにご回答をいただくようお願い申し上げます。